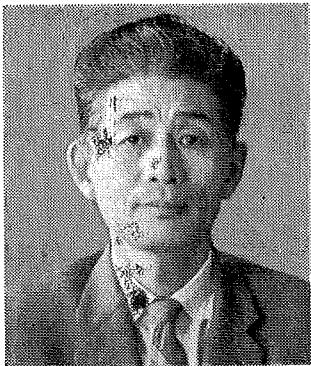


就任の御挨拶



社団法人 岡山県畜産会

事務局長 蔵 知 毅

この度、中国四国酪農大学校を最後に、三十五年間の公務員生活にお別れをして、社団法人岡山県畜産会に御厄介になることになりました。この長い間、大過なく勤めることができましたことは、皆様方の温かい御援助と御指導の賜と厚く感謝いたしております。三十五年間の歩みは昭和の畜産史でもあり、又機会を得まして思い出を記してみたいと思ひます。辞めてみますとつくづく大過なくという言葉をしみじみと感じます。この間の一つ一つの出来事がよき思い出となって甦って参ります。

日本農業には技術はあっても、経営は無いということをよく云われますが、稻作の様に古い歴史を持ち乍ら、なお経営となると判然としたものがないと云つても過言ではあります。

まして畜産の様な新らしい経営要素にありますては、経営体系の確立は困難な点が多いと思います。最近、農業構造改善事業が行われるようになつてから、特に農業の経営問題がやかましくなり、技術者は経営問題を口にしなければ、古いと云われる様になりましたが、経営の判つた技術者がはたして何人居るのでしょうか。

幅広い経営も、一つ一つの技術の積重ねであり、その総合的集積によって結果が出て来るのであります。技術者は新らしく見られるために經營問題を口にしますが、経営という言葉で自分の技術をカムフラージしてはなりません。農家が納得し、農家が儲かる様に指導しなければなりません。

こう云つた面で、畜産会は県下の先輩達のお知恵を拝借して、その技術を一つ一つ活かして、農家のために活動したいと念願いたしております。

幸い今年から常勤コンサルタントも増員されましたし、事務局も強化されました。体制を整えて大いに前向きで仕事をしたいと願っております。

どうか畜産会の事業を御理解頂くと共に、大いに活用して頂き、畜産の発展のために、お互い畜産人同志が手を携えて行きたいと思います。

本誌「岡山畜産便り」も、その活動の一つとして大いに活用したいと思っています。本誌の歴史の中の一部を担当した時もありましたが、今又私達の手で本誌を編集することになりました。本誌の歴史を汚すことなく、更に発展させるために大いに努力したいと考えております。

この上とも、畜産会のために御支援と御指導を賜りますようお願い申上げまして、御挨拶といたします。

季牛用配合飼料		
品良くもうかる!! 農辰1号 岡山県酪連	仔牛はこれで!! 雪印カーフミルク カーフフード	使て安心!! 北酪1号 北酪2号 岡山県北部酪農協
雪印種苗株式会社 東京 岡山 盛岡		
製造発売元「タネとエサ」の		

す。

ここに改めて厚く御礼申上げます。

先輩皆様方の御好意により、再び畜産会に就職することが出来、畜産界で働くことができることは何よりの慶びであります。どうぞよろしく御指導と御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

畜産会の仕事は、御承知のように畜産の技術指導とコンサルタントによる経営診断事業が主体であります

が、最近畜産の経営も次第に専業化して来ましたので、経営の指導は重要な課題になって参りました。

一概に経営指導と云いましても、これは大変な仕事であります。技術

は経営の一部であり、経営は全般であります。農家は、経営によって生計を樹てているのでありますから、直接農家収入に響くものであります。従つて、経営の上手、下手は、農家の経済に大きな影響を与えることになります。

第一回全国畜産優良技術発表会を開みて		花尾省治	2
サイレージの給与について		牧野守吾	3
ソルゴーの栽培について	12		
酪試	8		
ノンレイヤーについて	17		
ソルゴーの栽培について	12		
酪連だより	9		
和試	14		
黒毛和種若令去勢牛の肥育	17		
鶏試	14		

第一回全国畜産優良技術発表会を顧みて

岡山県常勤畜産コンサルタント 花尾省治

広域畜産技術交流推進事業の第一回全国畜産優良技術発表会が、去る三月二十四日、東京教育大学農学部において中央畜産会の主催で開かれた。各府県から代表者一名が選ばれて、これに参加することになっていたが、二県が欠けて四六府県のうち四四県の発表となつた。このうちわけは、酪農部門三〇件、肉用牛四件、養豚六件、養鶏四件で、特に酪農にその大部分が集中されたので、他部門が僅かとなりいささかものたりなさがあつたといえる。

この大会のねらいとするところは、昭和四十一年度から新たに始められた畜産技術改良中核農業者の非常に高い経営技術をその地域だけにとどめず、広く他府県まで普及を図りたいというねらいである。

多数者の発表を一日で終えるため、全体を六分科会（酪農のみは三班に分けた）に別けて発表を行い、分科会毎で意見の交換を行なつたのであるが、最後に全員を集め、各分科会の班長からそれぞれ講

評が行なわれた。発表はいずれも貴重なもので、極めて有意義な催であったといえる。これが第二と三回と回を重ねることにより、更に高度な技術が生れてくるし、広くこれらが普及されることを期待する。

本県からは『水田酪農経営における通年サイレージ給与について』と題して、邑久郡長船町土師の牧野守吾氏が発表（後記）し、これに對して再質問が集中した。また通年サイレージ給与に関連し経営内容、飼料作物の作付け、角型サイロ、貯蔵、給与について乞われて録音し、全国短波放送を行うことになったことは、水田酪農における新しい通年給与の方向付けに期待されているともいえる。

酪農部会の講評でとりあげられた点を一二二挙げると、発表の主なる項目は、飼料対策がとりあげられ、年間平衡との給与、土地基盤の整備、機械化の問題があげられている。水田地帯でのわら利用は度外視できないので、この研究が

能力の外に、牛の最後の目的となる肉の問題も重要なとなる。改良の点では種雄牛の選び方について研究がされていない。ところもあるが、そこまで平均がゆけば日本の中でも最もよく使われる。

第三班宮城県の発表によるハイレージの「ホルマリン滅菌法」については、これは、水分五〇%をねらいとし、サイロ六尺×一二尺のもので一尺二〇〇kgの生草量であるが、この二〇〇kgに対し、ホルマリンの原液三〇ccをふりかける（処理する）もので、これだけで細断も踏圧もせず芳香のする質のよいものができる。従つて、これまでのサイロ詰めでは同じ量を五～六人がかりでやつていたのを一人でも詰められて極めて省力されただうえに、経費も安くすまされると結んでいる。

一方、牧野氏の発表は、水分七〇%に繁殖では分娩間隔の短縮の問題、牛の改良の問題があげられ、六〇〇kgの能力のところもあるが、そこまで平均がゆけばハズソウ、キンエンコログサ等の野草の種子を全面に散播する。牧草地は金をかけずにこしらえるのであるが、牧道は作りこれを利用して尿散布を行い野草の成長をよくする。牛は子牛の時から急傾斜にならすと、大きくなつて傾斜の強い山に追いあげても危険はないし、無柵舎でハズソウ、キンエンコログサ等の野草の種子を全面に散播する。牧草地は金をかけずにこしらえるのであるが、牧道は作りこれを利用して尿散布を行い野草の成長をよくする。牛は子牛の時から急傾斜にならすと、大きくなつて傾斜の強い山に追いあげても危険はないし、無柵舎で全日放牧してさしつかえなく、健康で繁殖成績もよい。磨滅しない牛の口は、労力を要せぬ野草、ササを刈ってくれる。今後省力多頭を進めるには山地酪農方式を確立することであると声を大にして、発表がなされた。

水田酪農における年間一ヶ月給与のサイジについて

（発表者）

邑久郡長船町土師

牧野守吾

★★★★★★★★★★★★

「これは、去る三月十七日、岡山県畜産会主催で開かれた中核農業者群育成事業地方優良事例発表会で発表された経営実績のうち、優秀なものを紹介しているものである。なお、これは選ばれて中央（東京）での発表大会に参加した。」

★★★★★★★★★★★★

その結果、サイロの増設により、かなり粗飼料の年間平衡給与がはかられ、また開放牛舎も各戸に設けられ、育成成績も良くなつた。

サイレージの調製技術も向上し、共励会の出品の品質も殆んど八〇点以上の優れた採点となつた。

しかし、小規模飼育の兼業酪農家では繁殖成績、疾病の発生に改善がみられない。

対策として、長船町を中心として酪農家で、旭東酪農の北部酪農振興会を結成してグループ研究活動を行なつた。主な項目は次のとおりである。

① 経営診断共励会

② モデル農家の設置

③ 飼育管理、飼料栽培の研究

④ 施設の改善（サイロ増設、開放育成牛舎の奨励）

⑤ サイレージ共励会

長船町は岡山県南部の水田地帯で、地勢は平坦面積一、九三三ha、耕地九六〇ha（三五%）、残り山林その他である。全戸数一、五八六戸、人口六、八三〇人、農家戸数一二七三戸、農業人口五、九六〇人、一戸当たり耕作面積七三a、専業農家率一五%、農作物作付面積は水稻八五〇ha、麦八〇ha、たばこ三〇ha、一〇a当たりの水稻収量は平均九俵程度と多い。農業総生産額五四、八五〇万円で、内水稻七五%、畜産一三%，たばこ八、三%，野菜三、七%である。

畜産部門は酪農戸数八〇戸、頭数三〇五頭、肉用牛戸数一六一戸、頭数二七五頭、養豚一六三戸、繁殖豚一、〇九五頭、養鶏五九五戸、羽数一四、五〇〇羽である。

二、重点的技術研究の対象

水稻収量の多い水田地帯のため、水稻に飼料作物を作付けすることにかなりの制約をうけるので、年間平衡した粗飼料給与のためにはサイレージ調製が重要な項目で、サイレージ調製技術、サイレ

四、研究の経過および成果

一部では早くからサイレージの研究が行われていたが、グループとしては昭和三十八年からサイレージ共励会を開いて品質の採点を行つて、調製技術、材料、添加物等の関連について研究を重ね、現在は共励会の範囲も拡がり、旭東酪農組合全域で行われている。

グループの中心的酪農家（牧野）が岡山大学農学部と常に連絡を保ち、製品の事項で、サイレージ調製技術、サイレ

三、グループ活動の概要

人くらいの労力で二日間くらいに分けて行う。別に品質に変りはない。

四月五日詰込みの例を示してみると、これは六月に利用予定であるのでサイレージのでき上り水分を七二%程度にする。

一番刈りのイタリアンであるから水分八三・八四%として、前日の午後刈取り半日の予乾で水分八〇%になっている。

配合量は、イタリアン一、〇〇〇Kg、稻わら二〇〇Kg、乾燥澱粉粕五〇Kg

米ヌカ一〇Kg、ふすま五〇Kg、バイタル四五〇gである。六尺×九尺×九尺の角型サイロにこれを五・六回詰めると大体

いっぱいになり、約二、〇〇〇kg入る。追詰めをすれば一五、〇〇〇kgまで詰込みができる。

Kg、稻わら二〇〇Kg、乾燥澱粉粕五〇Kg、米ヌカ一〇Kg、ふすま五〇Kg、バイタル

四五〇gである。六尺×九尺×九尺の角型サイロにこれを五・六回詰めると大体

いっぱいになり、約二、〇〇〇kg入る。追詰めをすれば一五、〇〇〇kgまで詰込みができる。

最近はビール粕をサイレージとして貯蔵して利用しており、ミカン皮等の製造粕の利用も研究している。

夏期サイレージは二日分くらい一度に取出している。一回の取出しの厚さは一〇cm程度にする。

⑤ 年間サイレージ給与の効果

ア 年間平均して自給粗飼料が給与できる。

イ 時期的飼料価値の変動が少ないの

で、給与技術が簡単になった。

ウ 青刈給与方式に比べて、刈取運搬の時間が少なくなった。

第3表 サイロ詰込み配合例

区 分	イタリアン (生)	イタリアン (予乾)	ソルゴー	稻わら	乾燥澱粉粕	米ヌカ	ふすま	バイタル	栄養比
41. 4月詰込	— Kg	4,000Kg	— Kg	400Kg	200～150Kg	50Kg	— Kg	0.9Kg	1 : 8
41. 7月下旬	—	—	—	200	80	50	—	0.9	1 : 11
41.12月 "	4,000	—	—	800	200	50	—	0.9	1 : 8
42. 4月 "	—	2,000	—	200	50	10	50	0.45	—



第 1 回

酪農経営の所得を左右する第一の要因は、牛乳生産量の多少にあるが、この牛乳生産量は牛乳の資質、能力、出産間隔に支配されることが大きい。出産間隔を一年一産として牛乳の生産量をふやすには、飼養管理技術、とくに適正な養分量を考えた飼料の給与技術が必要である。さらに重要なことは、酪農経営が同一条件をもつ個体の集団ではなく、体重、産歴、産乳量と、それぞれを異にする個体の集団飼養であることから、養鶏、養豚経営に比較すると、もっとも複雑な技術を要する経営であるが、技術構造だけをみても幾多の改善すべき問題を内包している。

乳牛の健康を維持し向上するには、牛が他の家畜とちがった特殊な体质と状態においていることを、十分に知つておかねばならない。

第一胃で間断なく強力に行なわれている酵素が、異常にになるか、また、不完全な状態になると、よって生産される諸物質の性質を考え、牛の健康と生産を論ずることができないことがある。い

まず、反芻動物としての特質であり、第一胃で間断なく強力に行なわれている酵素が、異常になるか、また、不完全な状態になると、よって生産される諸物質を論ずることができないことがある。い

乳牛は、つねに飼料よりとり入れた諸物質を分解し、栄養成分を吸収、合成

牛の健康は、裏小作の形を生み出しながら伸展しているが、稻わらと裏作飼料に依存度の高い粗飼料基準では、産

家畜別	胃	小腸	盲腸	大腸	牛・馬・豚の消化器容積	
					百分率 (容積)	容積 (ml)
牛	70.8% (252.6l)	18.5% (66.0l)	2.8% (9.9l)	7.9% (28.0l)		
馬	8.5% (18.0l)	30.2% (63.8l)	15.9% (33.5l)	45.4% (96.0l)		
豚	29.2% (8.0l)	33.5% (9.2l)	5.6% (1.6l)	31.7% (8.7l)		

牛の第1～4胃は全消化器の70%の容積を占め、その中第1胃はこれらの胃の80% (200l) 以上である。

岡山県

畜産

試験場

より

酪農試験場 12頁

和牛試験場 14頁

養鶏試験場 17頁

ソルゴーの 飼農試験場たより

栽培について

岡山県の夏期飼料作物の作付けを見るにとほんとトウモロコシで、少量のテオシンントの栽培を見るのみであります。中部地方でも、一度栽培し始めたソルゴーも最近では一部を残して漸減する傾向にあります。自分の考え方を記しあしでも参考になれば幸いです。

ソルゴーの第一の利点は、栽培が容易で倒伏に強いということだと思います。トウモロコシは、七月中旬以降の播種量は収量が減少するとともに、播種ごとの

(1) 播種時期について
播種期は南部で四月下旬、中部で五月上旬で、早播すると晩霜の危険と、暖地作物特有の初期生育の緩和さが、雑草の侵入でおさえられてしまふ結果をまねきます。

栽培結果からいえば、初春からの雑草が衰えだし、初夏の雑草に移る時期をねらうとよいと思います。

(2) 播種量について
播種量は、条播では二~三kg (10a当たり) が適当であります。
また、散播では、二~四kgであるが、この一試験をあげてみますと第一表のとおりです。

この試験はハイブリッドソルゴーを用いたものですが、播種量よりも、再生により収量が左右されることが多いので、

(3) 施肥について

施肥については、追肥重点にしたほうがよい。窒素を基肥として多量に施すと、発芽不良になる傾向があり、特に播種してから高温、乾燥状態が続くと、この傾向は増大し、危険であるので、できるだけ安定した栽培法となれば、やはり窒素、カリは追肥を重點的に行なうほうが有利であります。

しかし、堆肥、石灰、磷酸等の肥料は、基肥としたほうがよろしい。

窒素、カリ肥料については基肥として全量の一〇%を施用し、第一回目の追肥として本葉六枚の頃全量の三〇%を与える。第二回目の追肥は一番刈りの直後、全量の四〇%を施用し、第三回目の追肥は、二番刈りの直後、全量の二〇%を施用します。

この施肥法は、ハイブリッドソルゴーの三回刈取利用を目標にたるものであります。が、スーダングラスとソルゴーの雑種については、多回刈りを行うことが可能でありますので、七月下旬と八月下旬までに重点的に追肥を行うようにする効果的です。

(4) 施肥量について

施肥量は、ハイブリッドソルゴーで、三回刈りをして、収量目標を一〇a当り一五tとした場合の試験成績をあげて参考としますと、第二表のとおりであります

増量する必要があります。

(5) 除草剤について

除草については、中耕を行い土寄せを行えば除草できますが、特に散播では、機械または手による除草は困難ですので

第二表 窒素施用量試験 kg/a				
区 分	昭和39年	昭和40年	昭和41年	
窒素 2 kg	1,029.3	1,024.1	1,063.3	
" 4 "	1,145.3	1,054.6	1,191.7	
" 6 "	1,240.3	1,133.4	1,166.6	
" 8 "	1,220.0	—	1,258.3	

品種の選び方について

大別して、ソルゴーどうしの雑種とソルゴーとスーダングラスの雑種であるが、従来ソルゴーどうしの雑種についてはサイレージ用、ソルゴーとスーダングラスの雑種は青刈用といわれてきましたが、当場での一例をあげて見ますと、ソルゴーどうしの雑種を五月中旬播種し、八月中旬に一番刈りをサイレージとし、二番刈りを十月に青刈りとして利用しています。

これは二番刈りの出穂が遅れる性質を利用したやり方であります。

ソルゴーとスーダングラスの雑種についても、刈取り回次に關係なく、平均して出穂する性質を利用して、二~三回サイレージ材料として利用する方法もあります。

作付けについて

これから、窒素肥料は条播で、a当り四kg、散播で四~六kgが適當です。カリ肥料は、窒素肥料と同様に条播で同四kg、散播で四~六kgが適當です。磷酸肥料については、二~三kgが適當ですが、黒ボク等の磷酸吸収係数の大きい所では増量の必要がありましょ。

石灰肥料はa当り四kg程度施用すればよいですが、酸性の強いところでは増量する必要があります。

播種量試験 kg/a

区 分 g/a	1番刈(7月28日)	2番刈(9月8日)	3番刈(11月11日)	合 計
100 g	370.8	523.6	52.8	947.2
200 g	465.3	576.4	51.4	1,093.1
400 g	569.4	562.5	70.8	1,202.3
600 g	552.8	590.3	65.3	1,208.4
800 g	651.4	570.8	72.2	1,294.4

播種量を六~八kg (10a当り) に増してもその効果はあまりないと考えられます。またスーダングラスとソルゴーの雑種は、再生がよいので、やや播種量を減らしてもよいと考えられます。

利用について

ソルゴーは当場を例にとると五月中旬播種し、十月下旬まで栽培するため跡作によつてはカブ、レープ、エンバク等の跡作も考えられます。

